

日本ボーイスカウト北海道連盟だより 142号



# 斧の響き



## 原点回帰

平成23年度年次総会は5月8日（日）北海道神宮頓宮において開催され、平成22年度事業報告、決算、平成23年度事業計画、予算案の審議が行われ提案どおり承認されました。総会において述べました平成23年度の理事長所信を紹介します。

私ども成人指導者は決して榮譽のためにスカウティングをしているわけではありません。B-Pが子供達に伝えたかったことは『他人を幸福にすることが自分の幸福につながる』ということでした。まさにこのことを実現する為に我々はスカウティングをしてきたのではないのでしょうか。

平成23年度は原点回帰をテーマとしております。他人のことを思いやれる子供たちを育てるのがB-Pの原点であり、そのための手法として、また手段として班制度、進歩制度などがあるのだと理解しております。私達がボーイスカウト講習会や研修所に入ったときは子供に還って受講しました。その時の気持を忘れずに進んでいきたいと思って居ります。

平成23年度の北海道連盟の事業計画については、従来の考えにとらわれず14の重点活動項目を掲げ、それぞれに常任理事或いはコミッショナー陣を責任者として取り組んでいきます。また特に力を入れる項目にはプロジェクトチームを結成し取り組んでまいります。

年度初めの登録状況については、資料にありますように2000人を割ってしまいました。単純に説明してしまえば新規に入団する数以上に退団する人数が多いと言うことですが、本運動の主旨すなわち青少年の育成という目的から考えるならば非常に恥ずべき状況であると憂慮しております。

せっかく本運動に入ってきたのに色々な理由があるにせよ、我々からの教育がそこで終わってしまったと考えますと、中途退団の原因が我々内部に、あるいは我々の教育体制に問題があるならば非常に恥ずべき状況だと言わざるを得ません。

もしかすると我々の気持の中に『去る者は追わず』の意識がなかったのでしょうか、子供達が参加しやすい環境をつくる為に団が最大限努力をしてきたのでしょうか。この数字を見るとおおいに反省すべき点があるように思えてなりません。従来からお話してきました通り新規募集の努力と中途退団を出来るだけ少なくする努力は車の両輪として考えていかなければなりません。

こういう登録状況の中でB-Pが提唱したスカウティングをどうすれば有効に発揮できるのか、23年度は各団ともに地区内あるいは最寄りの団との交流を盛んにしていっていただきたいと思えます。

ボーイスカウト北海道連盟 理事長 長岡 正彦

## 《平成23年度 北海道のボーイスカウト運動推進基本方針（テーマ）》

### ＝原点回帰＝

北海道のボーイスカウト運動推進に携わる全ての指導者・団委員等運営者は、創始者B-Pの提唱した「ボーイスカウトの青少年教育運動」、下田豊松先達をはじめ北海道のボーイスカウト運動の先輩諸氏の想い・足跡をふまえて、スカウティングの基本を見つめ直す原点回帰のもと、北海道のスカウティング新世紀を開きます。

#### 《北海道のボーイスカウト運動推進重点目標》

- 1 現代社会の状況に応じて、ボーイスカウトの教育運動の基本原則を確認して、
- 2 ボーイスカウトの教育運動推進の単位である「団・隊」の機能充実を図るため、
- 3 北海道連盟は、団（隊）、地区が推進するボーイスカウトの教育運動を支援して、
- 4 社会から信頼される指導者として自身を磨き資質向上に努め
- 5 充実した青少年教育プログラムを展開することにより、
- 6 地域社会から必要とされる青少年教育・健全育成運動に発展するよう

**地域社会と連動して、スカウティングの楽しさを一般の人々に広め、  
加盟員の定着・拡大に努めます**

#### 《北海道のボーイスカウト運動推進重点活動項目》

- 1 エコなスカウティングを進めよう 〔北野〕  
～北海道のボーイスカウトが一つのテーマのもと新たな動きを創出～
- 2 仲間を増やそう～ビーバー・カブプロジェクト～ 〔飛鳥〕
- 3 パトロール・システムで原点回帰 〔扇間〕  
～スカウトにより充実したスカウティングを～
- 4 ネットワークを活かしたベンチャー活動の推進 〔北野〕
- 5 若手指導者の発掘とネットワーク形成 〔池田〕
- 6 新たな発想・体制での全道大会開催 〔高橋〕
- 7 安全管理・予防で活動的なスカウティングを 〔下田〕
- 8 社会から信頼され、豊かなスカウティングを提供する指導者養成 〔池田〕
- 9 「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクトで国際人育成 〔今井〕
- 10 広報活動の充実による情報の共有化とスカウティングのPR 〔菊地〕
- 11 スカウトスピリッツの普及で原点回帰 〔西岡〕
- 12 支援団体・機能との連携強化による北海道のボーイスカウト推進 〔西岡〕
- 13 理事会等の機能充実と事務局機能の効率化等により組織運営体制の強化 〔中本〕
- 14 北海道連盟と地区・団との連携強化と支援 〔扇間〕

\*項目末尾の〔 〕は、主担当学識経験者理事・正副コミッショナー

## 非継続となった理由の調査 結果 (速報)

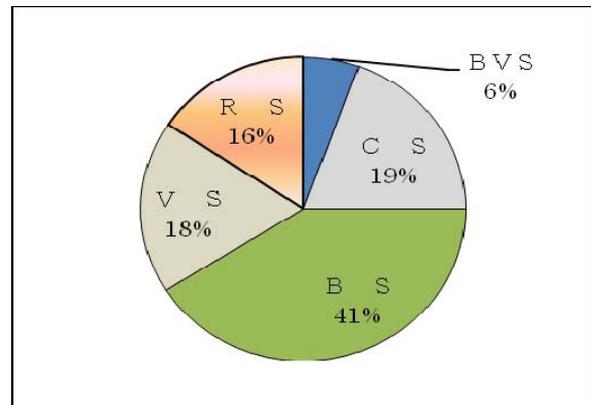
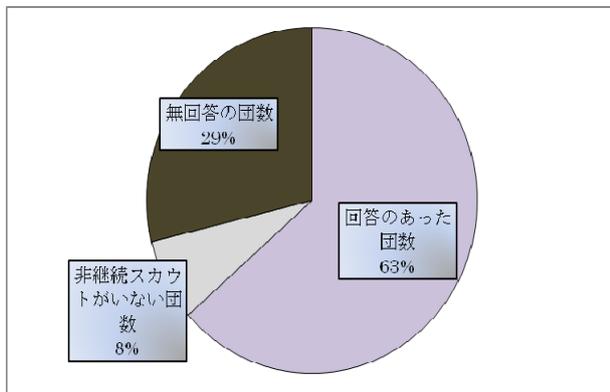
平成23年度北海道のボーイスカウト運動推進重点目標である「加盟員の“定着・拡大”」に努めるため、各団のご協力をいただいて「非継続となった理由の調査」を行いました。

調査結果の集計速報をお伝えします。

- \* 23年度登録の際に非継続になったスカウトを対象に調査
- \* 非継続スカウトリストをもとに団委員長に調査依頼

【回答状況】 計52コ団	
回答のあった団	33コ団
非継続スカウトのいない団	4コ団
無回答の団	15コ団

【非継続スカウト数】(人)			
BVS	15	VS	49
CS	52	RS	42
BS	110	計	268



### 【非継続となった理由項目】

\* 非継続になったスカウト毎に次の選択肢に○印をつけた。重複の理由(回答)あり

カテゴリー	選択肢No.	非継続になった理由
A	1	BVS⇒CS、CS⇒BS、BS⇒VSに上進するときに非継続になった。
	2	上進する隊のプログラム(活動)に魅力を感じていないようだ。
	3	上進する隊のプログラム(活動)についていけそうにないようだ。(体力・知力など)
	4	上進する隊の指導者になじめそうではないようだ。
	5	上進する隊のスカウトたちと仲間になれそうではないようだ。
B	1	指導者とスカウトの人間関係のようだ。
	2	スカウト同士の人間関係のようだ。
	3	指導者と保護者の人間関係のようだ。
	4	保護者同士の人間関係のようだ。
C	1	ボーイスカウト(BVS、CS、BS、VS)の活動に馴染めないようだ。
	2	スカウトが期待していた活動ではないようだ。
	3	保護者が期待していた活動ではないようだ。
	4	本人の性格、身体的理由のようだ。
	5	保護者の考えと団・隊の運営、活動が合わない。
D	1	経費が負担になる。
	2	部活、塾、習い事と両立できない。
	3	進学(就職)のため。
	4	転居、他の団に転団。
E		その他(理由を分かる範囲で具体的に記入してください)

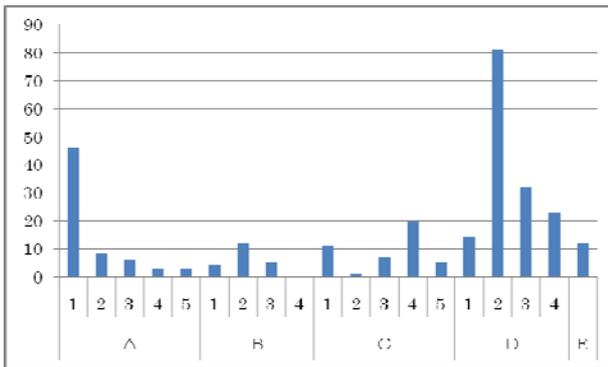
【非継続となった理由（全体）】

カテゴリー	A					B				C					D				E
選択肢NO	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
回答実数	46	8	6	3	3	4	12	5		11	1	7	20	5	14	81	32	23	12

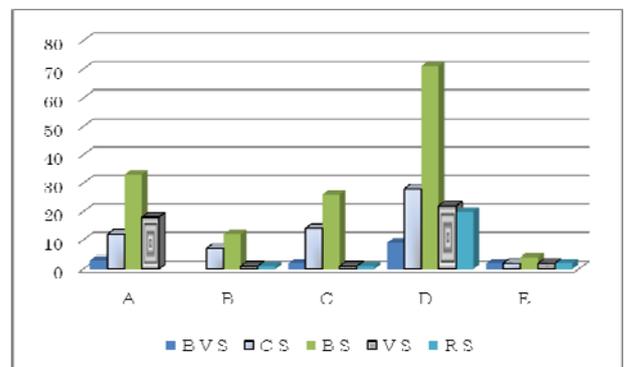
【非継続となった理由（部門別比較）】

	A	B	C	D	E
BVS	3		2	9	2
CS	12	7	14	28	2
BS	33	12	26	71	4
VS	18	1	1	22	2
RS		1	1	20	2

【非継続となった理由（全体）】



【非継続となった理由（部門別比較）】



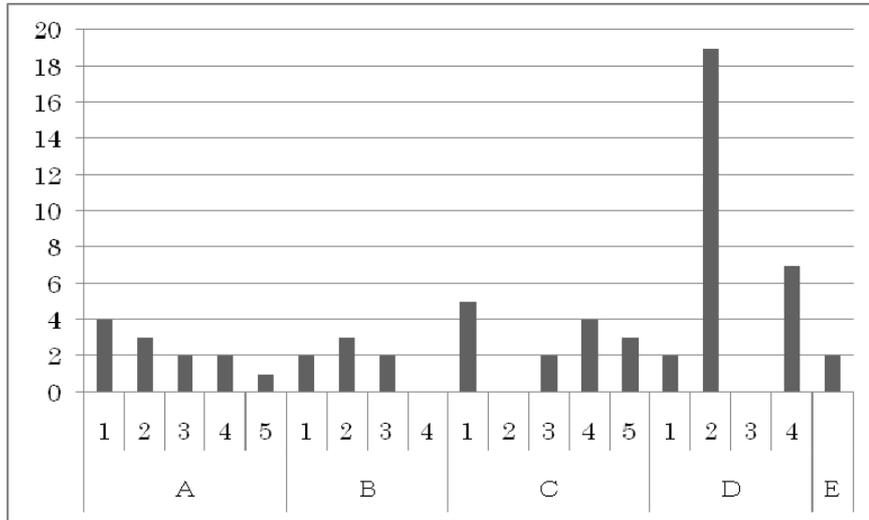
《コメント》

- ◇ 各部門ともDカテゴリーの経費負担、部活・塾等との両立ができず非継続となる件数が多いが、ビーバーにもその傾向が出てきていることに注視したい。
- ◇ 上進に伴い非継続となる件数は各部門とも多いが、団における各部門の連携や上進訓練のあり方に解決策を見出すことができるのではなかろうか。
- ◇ その他の理由の主なものを列記する。
  - \* 兄（姉）が継続しないため。
  - \* 障害児（心療）で集会の出席率が高いが、上進時に非継続となった。
  - \* 本人はボーイスカウトに熱心であるが、母親が勉強の妨げになるとして継続を認めなかった。
  - \* 家庭の事情（経済的理由）
  - \* 昔と違い平日は近所の子ども同士集まって遊ぶことがなくなり、設定された集団（スポーツ少年団）の中で体を動かしている。よって集会のある土・日は、試合が集中するためスカウト活動が良いとわかっているにもかかわらず、両立は困難であると思う。（某団委員長のコメント）
  - \* 家庭の保護者との関係が希薄になるので、その点が気になります。カブは部活で、ボーイは塾も加わり退団の原因になっています。日頃の保護者との関係をもう少し密にすることで二者択一という結果ではなく二者二択でのボーイと部活や塾の両立を図れるよう、私達は工夫をしてゆかなくてはと思いますが、あきらめや、家庭の介入を拒む指導者も存在する現実です。

（某団の自由記述から）

【カブスカウトの非継続となった理由】

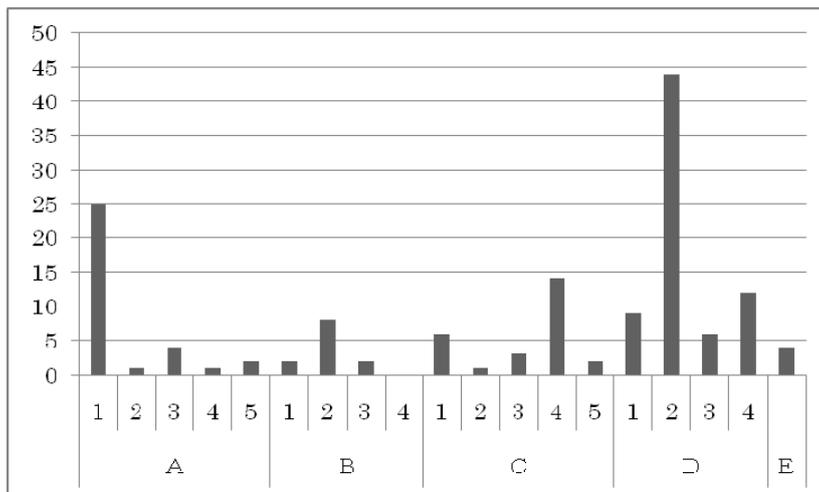
カテゴリー	A					B				C					D				E	
選択肢NO	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4		
回答実数	4	3	2	2	1	2	3	2		5		2	4	3	2	19			7	2



- ◇ C-1 「カブの活動に馴染めないようだ」とA-1 [上進する時に非継続になった]  
 B-2 「スカウト同士の間関係のようだ」の理由は、プログラムの工夫により解決の道筋を探ることができないであろうか。

【ボーイスカウトの非継続となった理由】

カテゴリー	A					B				C					D				E
選択肢NO	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
回答実数	25	1	4	1	2	2	8	2		6	1	3	14	2	9	44	6	12	4



- ◇ カブスカウトと同様の傾向が見られ、プログラムの工夫により解決の道筋を探ることができないであろうか。

# 東日本大震災被災者救援活動に 北海道のボーイスカウトのパワーが結集

ベンチャースカウト有志の提案で始まった東日本大震災被災者救援活動には北海道のボーイスカウトのパワーが結集した活動が展開されています。

◎ 街頭募金参加者 延べ	1,328名
◎ 集まった義援金	6,645,117円
◎ タオルを贈る運動 〔5月末現在〕	8,159枚以上 137箱

## 〔街頭募金〕

地域の方々と連携して行った地区。スカウト手作りの募金箱で呼び掛けた地区。3月から6月まで毎月1回継続的に行っている地区。街頭募金に立っているスカウトにお菓子を差し入れてくださった御婦人など多くの方々の善意の輪が広がった街頭募金が全道各地で行われています。

5月3日に中間集約した義援金をスカウト代表が日本赤十字社北海道支部にお届けし、北海道共同募金会に送金しました。北海道連盟に集約された義援金は随時日本赤十字社北海道支部に送金しています。



## 〔タオルを贈る運動〕

「一人ひとりの善意でスカウトの家庭にあるタオルを被災された方々に贈ろう！！」の提案が大きな広がりとなり、当初予想していた以上のタオル類が集まりました。

スカウトや指導者が分類・整理して株式会社インターナショナルクリエイティブ様のご協力で5月28日、現地にお届けしました。





### =現地からの報告=

お預かりしたタオルについて、昨日、「本日ですべて配布完了」とのことで現地より連絡ありました。

配布先は、石巻市中心部の眼科医などの医療関係と牡鹿半島先端の鮎川町です。

配布は、北海道出身の松平さんがちょうど現地入りしていたので、当方の指示で配布をしてもらいました。

タオルケットについては、これより埼玉県内の避難所に転送させていただきます。

=吉村敏日本連盟総務部副部長=

石巻ベースのタオル8000枚、配布完了しました。

どろかきで石巻ベースにいました。

日本連盟からの依頼により、私が配布しました。

ニッサンキャラバン3台分です。

配布先等は日本連盟から報告があると思います。

とても喜んで受け取ってもらえました。

まだまだニーズはあります。

=横浜115団 松平信彦= (旭川出身)

### 《被災地からのお礼》

はじめまして。(略)この度、北海道のボーイスカウトの皆さまからたくさんの支援物資をいただきました。ボーイスカウトにいます五十嵐様を通して私達は北海道の方々の思いを受け取りました。本当にありがとうございます。子供達が通う貞山小学校も水没し大変でしたが、毎日楽しく通学し、勉強できるようになりました。毎日少しずつですが石巻は復興しております。皆様の心遣いに感謝してこれからも頑張っていきます。

宮城県石巻市 貞山ファイターズ父兄代表 石森真弓

### =ご報告とお礼=

先日の5月28日に3月より全道から集めていたタオルをトラックに積み込んで、日本連盟の前線基地がある石巻市に送り出しました。

全道のスカウト、スカウト関係者から贈られたタオルは8,000枚を超え、種類別に整理・仕訳をして137箱のかなりの数になりました。

皆様方の善意、北海道のボーイスカウトのパワーの強さに感動しました。

皆様から寄せられたタオル類は、多くのリーダーやスカウトが数回にわたって集まり、整理・仕訳・箱詰め作業などを行ってくれました。

これら一連の活動は沢山の人々の協力がな

ければ、決して実現することはできませんでした。

札幌地区ベンチャーとして深く感謝いたします。

今回、被災地に送ったタオルは、現地の判断によりさまざまなところに届けられますが、送ったタオルは必ず、被災地でそれを必要としている人のもとへ届けられます。私たちの行動心は被災地の方へとつながっているのです。

今後も継続して支援・救援活動を行っていきたいと思いますのでご協力よろしくお願ひします。

ボーイスカウト札幌地区ベンチャー 東北大震災救援活動プロジェクト 代表 樋口 大樹

# ウッドバッジ研修所カブ課程北海道第45期 リポート

## “ひとつになるう”



例年よりも肌寒い、不順な天気が続いた今年のゴールデンウィーク

でしたが、北海道内より13名の参加者をもって、指導者訓練コース「WB研修所CS課程北海道第45期」が5月2～5日、旭川地区野営場にて開催されました。期間中は初日より雨降りで、天候が回復したのは最終日のみ。特に初日の設営は数センチの降雪の中で行われました（この天候は所長の普段の行いのせい？）。悪天での野営生活は、参加者には「寒くて辛い」ものだったと思いますが、「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ、雪ニモ負ケズ・・・」全員が3泊4日の研修を無事修了されました。

私はこの研修所を通して、「ひとつになる」というテーマを掲げました。これは単に「参加者と所員」がひとつになって研修を進めることだけでなく、研修で学んだことを、参加者がスカウトに提供することにより、スカウトを含めて「ひとつになる」ことを念頭においたものです。

具体的には、参加者が自隊においてすぐに活用できるよう、カブ隊の編成による朝礼、カブ隊の基本動作の反復練習を毎朝行いました。「カブコール」を知らない、できない方もいましたが、参加者には積極的に取り組んでいただ

WB研修所CS課程北海道第45期

所長 得能和成

き、修了時には実施できるまでになりました。朝礼では、国旗が開かないアクシデントもありましたが、失敗から学ぶことも多かったと思います。

プログラムの企画では、参加者が作成した隊集会実施計画書を、所員が手直しして実施する方法で行いました。参加者には、ちょっとしたアイデアにより隊集会が楽しく深みのあるものになること、テーマの重要性、組集会と隊集会のプログラムプロセスを理解いただけたと思います。

また、カブ隊のスカウト数が10名に満たない団が多いことから、少人数での隊の運営、どのように組活動を行うかということについても、時間を割いて説明いたしました。

参加者には多くのことを学んでいただき、「カブ隊運営の基本的な方法、特にプログラムの作成、展開が理解できた」、「今まで組の活動を行っていなかったのに、今後自隊で取り組みたい」といった感想が聞かれました。学習したことを自隊で活用し、スカウトのために活気ある隊の運営につながればと思います。そしてその活気を、隊から団・地区・道連へとつなげていただきたい。参加者の今後の活躍を期待いたします。

最後に、参加者のために奉仕いただいた所員の皆様、裏方となって支えていただいた旭川地区の皆様、紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

※ WB研修所CS課程北海道第45期は、文部科学省委託の自然体験活動指導者養成事業のカリキュラムを併合し履修しました。

参加者は教育委員会の“自然体験活動指導者”として登録して、小学校で実施する1週間の長期自然体験活動に対応できるスキルの修得を行いました。

## 【参加者の感想から】

### 《研修所に参加して》

- ◎ 初日から沢山のことを学ばせて頂きました。今日のセッションは自分が今、1番悩んでいる所にドンピシャ。思わず涙がポロリ・・・しそうなくらいジーンときましたが、自隊へ帰りあせらずゆっくりと問題を解決していければと思います。
- ◎ 自隊の状況が大変な中、これから戻って困った時に相談できる所を明確に知り、来る時に持っていた不安が少し軽減されました。
- ◎ 私たちがスカウトを支えていること。私のうしろに多くの方が支えてくれていることを忘れずにいたいと思います  
一人のスカウトのために私が存在していることを忘れずに活動していこうと思います。
- ◎ 日常的にスカウトの能力を知ることの大切さを学びました。

### 《プログラムについて》

- ◎ 隊集会の計画の経験がなく、テーマを作っていく過程を学べたこととは、とてもタメになった。自分がしたいこととスカウトのしたいことをきちんと混ぜて楽しい計画を作れるように努力していきたい
- ◎ プログラム作りの大切さがよくわかりました。特にリーダー集会→隊計画について、きちんとした話し合いができる様自団で取り組みたいと思います。
- ◎ プログラム作成はカブに限らず、他部門でも「やりがい」を見つけて行えるような気がしました。スカウトを「楽しませる」という気持ちで作成を始めてみたら、目標、課目等のクリアの方法も広がってくると思いました。
- ◎ スカウトにとってテーマが興味をそそるものであることが必要だとわかった。
- ◎ 組集会を行うことによって隊集会が充実したものになるということがよくわかりました。保護者の方をまきこんで楽しいプログラムが出来るように頑張りたいと思います。基本動作も忘れずに
- ◎ 活動プログラムそれだけでなく、プログラムに至るまでの各集会と計画を密に行うことで内容がとても面白くなり、また教育面でも充実していけることがわかりました。

### 《安全について》

- ◎ 自隊では安全教育が指導者や親にはできてもスカウトにはできてないなあ～と思いました。これからはスカウトにも安全教育をしたいと思います。
- ◎ どんな活動にも安全面に注意して行う必要があることを学んだ。またスカウトのニーズに合わせるだけではなく保護者との関係が大切であると感じた。
- ◎ 安全管理の大切さ、今後に活かしていきます。



雪の中で設営



眠さ堪えての講義



爽やかな朝礼



童心に帰ってゲーム



# カブラリーニュース 滝野の森へ行かナイト! No.3



平成23年度全道カブラリー参加スカウト隊のみなさんへ～  
テーマ:「たきのの森を守らナイト!!」

各隊指導者の皆さんへ参加準備についてのお願いです。  
事前の集会にて、スカウトの負担にならないよう少しずつ取り組んで大会に参加をお願い致します。  
今後スカウト用の案内も出しますので、参加に向けての意欲が高まるよう準備をお願いいたします。

①テーマソングをおぼえて来て下さい。

- ・カブ歌集「ジャングル探検隊」をおぼえておいて下さい。  
テーマソング用の替え歌の歌詞は後ほどお知らせします。

②動物・鳥・昆虫等の生き物の絵を画用紙（B4サイズ程度）に描いて送ってください。

- ・ライオンキングに出演しているキャラクターの絵でもOK。
- ・締め切り 8月15日まで、北海道連盟事務局まで  
動物・鳥・昆虫の部門別にコンテストをします。

③ナイト（騎士）の衣装を作って参加して下さい。

- たとえば、リボンの騎士のような!?
- ・9月18日のハイキングで着用します。独自のスタイルで悪魔にとらわれた「みどりの妖精」を助け出して下さい。

※ 衣装デザインコンテストをします。

（スカウトが考えた衣装のデザインを描いたものを送ってください。

衣装作成は大人が手伝っても構いませんが、デザインはあくまでもスカウトが描いたものでお願いします。）

- ・デザイン締め切り：8月15日 北海道連盟事務局まで

④ハイキングでは、暗号文と追跡サインをつかいます、隊活動で練習してきて下さい。

- ・追跡サインはカブブックに出ています。

⑤東北大震災で被害を受けた、東北ブロックのスカウトへ励ましのメッセージを贈ります。

- ・大会旗にメッセージを書きます、集会のときに何を書くか考えさせて下さい。  
（大会中に書き込んでもらいます。）
- ・青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島の各県連に送りスカウトに見てもらい元気に活動できるように励ましたいと思います。



## 平成23年度 北海道連盟役員

### 【正副連盟長】

連盟長	高橋 はるみ
副連盟長	鎌倉 伯男

### 【学識経験者理事（常任理事）】

理事長	長岡 正彦		
副理事長	前田 和道	下田 好徳	
プロジェクト担当 常任理事	高橋 直克	広報担当 常任理事	菊地 一泰
スカウト担当 常任理事	北野 和	総務担当 常任理事	西岡 浩
リーダー担当 常任理事	池田 君松	常任理事 事務局長	中本 亨

### 【地区代表理事】

今井 憲克（函館）	吉野 了乗（空知）	鴨下 泰久（北網）
田中 洋一（胆振）	三國 久介（留萌）	富川 俊則（十勝）
小林 幸治（石狩）	高橋 明（旭川）	田中 卓（釧路）
藤岡 順正（札幌）	小西 恒（上川）	

### 【北海道連盟正副コミッショナー】

コミッショナー	扇間 康弘				
副コミッショナー	今井 建	飛鳥 慶子	高橋 直克	北野 和	池田 君松

### 【監事】

北 秀継	小川 勉
------	------

### 【名誉会議】

仙座 猛	清水 義明	川越 道生	田代 國治	猪股 巖	高木 康
------	-------	-------	-------	------	------

### 《トレーニングチーム》

日本連盟トレーナー	高橋 忠義	高橋 直克	扇間 康弘	池田 君松	高橋 明
日本連盟副トレーナー	菊地 一泰	下田 好徳	佐々木 篤美	池田 佳津枝	奥山 亮枝
	三國 久介	神山 博子	得能 和成	今井 建	宮澤 多佳子
	野内 吉徳	高木 康	中島 忍	飛鳥 慶子	高野 みどり
	村上 政義				

### 《北海道スカウトクラブ》

平成23年度北海道スカウトクラブ総会が、6月4日(土)真狩野営場で開催され役員改選が行われました。

会長	永岡 裕		
副会長	山村 昭二	入部 道之	
幹事長	川越 道生		
幹事	岡田 聡	大橋 和子	藤本 安一



## ニ事務局ニュースニ

### ◇ ご存知ですか。北海道のボーイスカウトの加盟状況

昭和58年度に142コ団、310コ隊で8,948名の加盟登録者がいましたが、残念ながら平成23年4月1日現在では2,000名を下回る加盟登録状況になっています。

該当する年代の子どもたちの内、ボーイスカウトに加盟登録している子どもたちの比率はどうなっているのでしょうか。平成23年3月末現在の日本連盟資料を抜粋しました。

	団数	隊数	スカウト数						指導者数	団委員数	計
			BVS	CS	BS	VS	RS	計			
昭和58年度	142	310	--	2,228	2,964	885	157	6,234	1,565	1,149	8,948
平成23年度	51	187	149	308	346	211	66	1,080	496	374	1,940

#### 《該当者100人に対するスカウトの割合》

	ビーバー	カブ	ボーイ	ベンチャー
北海道連盟	0.19	0.30	0.21	0.15
全国平均	0.63	0.76	0.53	0.41
最も率の高い県	1.56	1.64	0.98	0.84
	奈良県	富山県	奈良県	愛知県

#### 《これからの行事・会議予定》

- 〔第2回常任理事会・正副コミッショナー会議〕 6月18日(土) 道連会館
- 〔日本連盟安全促進(基幹)フォーラム〕 6月19日(日) 札幌市教育文化会館
- 〔第1回地区コミッショナー研究集会〕 6月25日(土)～26日(日) 北海道神宮頓宮
- 〔第2回理事会〕 7月3日(日) 道連会館
- 〔第2回ボーイスカウト講習会(釧路)〕 7月3日(日) 釧路市コアかがやき
- 〔野営法研修会〕 7月16日(土)～18日(月) 真狩野営場  
\*申込締切 7月4日(月)
- 〔第3回常任理事会・正副コミッショナー会議〕 8月21日(日) 道連会館
- 〔平成23年度北海道ベンチャーフォーラム〕 9月上旬 (日程調整中) 札幌市
- 〔平成23年北海道カブラリー〕 9月17日(土)～19日(月)  
札幌市滝野青少年山の家/滝野丘陵すずらん公園  
\*確定申込締切7月31日(日)
- 〔2011ビーバーデー〕 9月18日(日) 札幌市滝野丘陵すずらん公園  
\*参加申込締切7月31日(日)
- 〔スカウトの日〕 9月19日(月) \*日本連盟ホームページ参照
- 〔北海道・東北ブロックスカウトフォーラム〕 9月23日(金)～25日(日)  
青森市・青森県青年会館

斧の響き 142号(平成23年6月10日発行)

発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟/発行責任者：北海道連盟理事長 長岡 正彦  
〒062-0934 札幌市豊平区平岸4条14丁目3 北海道ボーイスカウト会館内  
Tel 011-823-7121 Fax 011-814-9377 E-Mail douren@agate.plala.or.jp  
北海道連盟公式HP <http://www.bs-douren.org/>